

スーパー・シネラマ方式上映

シネラマ

〈テクニカラー〉超ステレオ音響

屋根の上の バイオリン弾き

トポル ■ ノーマ・クレイン ■ レイモンド・ラフロック
ロザリンド・ハリス ■ ミシェル・マーシュ ■ ニーバ・スモール ■ エレン・エドワーズ
製作・監督 ノーマン・ジュイソン ■ 音楽監督 ジョン・ウィリアムズ
原作 ショーラム・アレイハム (主題曲 / サンライズ・サンセット / 他 ■ ユナイトレコード)

涙を見せないで！
愛する人を追つて私はシベリアへ行きます

すばらしい愛と永遠の感動につつまれて
華麗なヒット・メロディのかずかずが
涙をさそう今世紀最大のロマン超大作！



"Fiddler
on the Roof"

United Artists
A Transamerica Company
ユナイト映画



屋根の上のバイオリン弾き

■スタッフ

製作・監督……………ノーマン・ジュイソン
原 作……………ショールム・アレクハム
脚 本……………ジョセフ・スタイン
撮 影……………オズワルド・モリス
音楽監督……………ジョン・ウィリアムズ

■キャスト

デビエ……………トボル
妻ゴールド……………ノーマ・クレイン
フョードカ……………レイモンド・ラブロック
長女ツァイテル……………ロザリンド・ハリス
次女ホーデル……………ミシェル・マーシュ
三女チャバ……………ニーバ・スモール
四女シュプリンツェ……………エレン・エドワーズ
五女ビルケ……………キャンディス・ボンスタイン
仕立屋モーテル……………レナード・フレイ
学生パーチェック……………マイケル・グレイザー

愛の涙にぬれる美しい感動のミュージカル!

山なみの彼方に浮ぶ夕陽。空は絵具を流したように紅く、地上のものを美しく、色鮮かに浮彫りする。古びた小さな屋根の上のバイオリン弾き。一生懸命楽しい曲を弾きだそうとしているが、いつしか、もの哀しいメロディを奏してしまふ。一本目の弦は愛を、二本目は平和を、三本目は忍従の精神に裏打ちされた不屈の意志を、そして四本目は伝統を。屋根の上で足もとを気にしながら。必死に平衡を保ちながら……

陽は昇り、陽は沈む……そして、また……

「屋根の上のバイオリン弾き」

伝統に生き、伝統を重んじ、伝統を礎としながら未来を切り開くここ南口シヤに住む人たち。その力強さはやがて大なる〈愛〉に昇華。縛る一切のものを拒絶し、人々は唱い、踊り、舞う。確かな伝統と切り開く〈愛〉の未来を予兆して。

「屋根の上のバイオリン弾き」は確実に〈愛〉のドラマ。

’64ブロードウェイで初公演されて以来、日本を含めて25カ国で上演、5千余万人が舞台を見、共に笑い、泣き、感動した。これは圧政とあらわな差別に生きた「さすらいのひとびと」の誇りと尊敬とをドラマチックに感動的に描きあげた〈愛〉の物語。〈愛〉のミュージカル。人生の詩。シネラマの大画面に超マルチステレオサウンドで展開する〈愛〉の詩。

♪伝統の歌……19世紀末、革命前の南口シヤ。ウクライナ地方のアナテフカ。ここにはかじ屋、仕立屋、市場などが貧しく雑然と並んでいる。屋根の上には落ちないよう平衡を保ちながらバイオリンを弾いている。

アナテフカの牛乳屋デビエ。貧しくとも信仰厚い男。ロウるさい妻ゴールド。愛らしい五人の娘。ツァイテル。ホーデル。チャバ。シュプリンツェ。ビルケ。それに馬一頭。

♪仲人の歌……安息日のお祝いで忙しい

デビエの家。そこへ仲人婆さんが結婚話をもってきた。肉屋ウォルフは長女のツァイテルがほしいという。妻は良縁と思ったが、デビエが何というか心配だ。長女は仕立屋のモーテルを愛していることを知っているからだ。

♪もし金持だったら……デビエは馬を引きながら家路を急いでいた。もしお金があったら、フト思った。

♪安息日の祈り……途中、貧しい学生パーチェックに出会った。革命家だ。二人は意気投合した。デビエは食事をおごり、代りに娘たちの勉強をみてもらふ。デビエは家に学生を招き、紹介した。

♪人生に乾杯……デビエは長女と肉屋ウォルフとの結婚を許した。居酒屋へ二人が連れだっていくと村の人たち、ロシア人までも一緒になって歌い踊った。

♪奇跡の中の奇跡……長女は仕立屋モーテルを愛しているとデビエに打明けた。デビエは板ばさみになって苦しんだが結局は二人の結婚を許すのだった。

♪仕立屋モーテル・カムゾイル……デビエは納得したものの妻にどうか、彼は一計を案じた。肉屋の死んだ女房とお婆さんが現れて、この結婚に反対。そんな恐い夢をみた、と。妻は夫の真意を悟り、仕立屋との結婚を許した。

♪サンライズ・サンセット……結婚式はしきたり通りに行われた。参会者は誰いともなく踊り始めた。

その時、ロシアの警官隊が乱入し、式どころではなくなった。

♪愛しているかい……アナテフカは一見平和のようだが、内実は圧制、打ちこわし、暴動の気配が漂っていた。三女チャバはロシアの若者フョードカと恋をしていた。革命に参加するパーチェックは次女ホーデルに結婚を申し込んだ。呆然とするデビエ。ものわりの良いデビエだった。が、妻は無理解だ。デビエはホーデルの気持を説明し、

妻に愛しているのだったらとたずねた。

♪愛するわが家を遠く離れて……学生パーチェックは逮捕、シベリア送り。次女は学生を追ってシベリアへ行くと、デビエに別れを告げた。悲しすぎるデビエ。三女のチャバはロシアの青年と結婚する意志だったがデビエは断固反対した。政敵ロシア人と結婚するなんて。すべてが違う。自分たちとは。

♪アナテフカ……悪化する政情。全てのユダヤ人は三日以内に村を離れること。滞留することは死を意味していた。一切合財を積み人々は村を離れた。散り散りに。ポーランドへ、イスラエルへ、アメリカへ……と。

デビエが村を離れるとき、屋根の上からバイオリンのメロディが聞こえてきた。デビエは彼を招いた。旅立つ……どこへ。バイオリンのメロディがこだましていた……

これは単なるミュージカルではなくある時代を生きたナマの人生のドラマに仕上がっている点が秀逸である。監督は名匠ノーマン・ジュイソン。音楽監督は「ジョーズ」「ミズーリ・ブレイク」のジョン・ウィリアムズ。数々のヒット・ナンバーに酔いしれる。振付は「ウェスト・サイド物語」のジェローム・ロビンス。撮影は「オリバー」「ナバロンの要塞」のオズワルド・モリス。主役デビエには各舞台で経験豊富なトボル。ほか世界の映画、演劇人総出演。人気スター、レイモンド・ラブロックもロシア青年の役を見事に演じている。特筆すべきは愛らしい五人のスターがこの作品のため世界から公募され、見事な演技を見せている。

特に長女の結婚式。三女たち一家の離散がすばらしい感動をみせる。ロビンスの振付けた三人のヒロインの踊りやロシアン・ダンスは「ウェスト・サイド物語」をしのいですばらしい興奮をみせる。

《上映時間 3 時間 5 分》

9月18日<土>より
愛のロードショー

スーパー・シネラマ方式上映
シネラマ
カラー作品・超ステレオ音響

スーパー・シネラマ・シアター
テアトル東京
銀座1丁目 (562) 5301
●特別鑑賞券900円(一般1200円・学生1000円の処)絶賛発売中